

2021年3月18日
auじぶん銀行株式会社

「第3回教えて!臼井社長」元阪神・藤川球児さんに “金融のプロ”auじぶん銀行社長が教える「資産運用入門編」

～今年の阪神の順位予想と注目選手、現役時代の10連投についても語る
「投資と同じで一步一步着実に」「注目はタイガースの首脳陣」～

auじぶん銀行株式会社(所在地：東京都中央区 代表取締役社長：臼井朋貴)は、アスリートのセカンドキャリア支援企画として「特別対談“教えて!臼井社長”」を、3月15日(月)に実施しました。

特別対談では、プロ野球・阪神タイガースの元投手で現在阪神タイガースの「Special Assistant」も務める、野球解説者でありYouTuberの藤川球児さん(40)をお招きしました。社長の臼井朋貴が、藤川球児さんに、「投資の始め方や、少額でも始められるおすすめの資産運用」をレクチャー。初心者でも挑戦しやすい資産運用や、藤川さんの現役時代の裏話、さらに阪神の順位予想などについても語っていただきました。



＜教えて!臼井社長＞ https://www.jibunbank.co.jp/dialogue/ceo_01/

<対談レポート>

野球選手の後輩が抱えるお金の不安「貯金はできているも資産運用まではなかなか……」



イベントは、MCによる社長の臼井と藤川さんの紹介からスタート。対談について藤川さんは、「私自身、現役生活非常に長くプレーしていましたが、セカンドキャリアは自分で悩みながら新たな一歩を踏み出しました。今日は臼井社長から話を聞いて、後輩たちにとっていいきっかけになればいいなと思っています。」とコメント。

無類の野球好きで少し前まで少年野球の監督を務めていた臼井は「本当に嬉しいです。私も大阪生まれ大阪育ちで、小さい頃からずっとタイガースを見ていました。」と笑顔を見せ、「テーマ曲いいですね。あれを聞くだけで涙が出ます。」と藤川さんの現役時代の登場曲である「every little thing every precious thing」にも言及しました。藤川さんは「あれは妻と決めた登場曲です。野球はあくまでもスポーツですが、競技生活の中にはどういう風に人生を送りたいかの人生設計がある。これは永遠のテーマですね。」と競技人生と絡めて話しました。さらに「今阪神のスペシャルアシスタントとして、少年野球や、女子野球の振興のために活動しています。そういう意味でも、すごくありがたい存在で、お話をさせていただくのが楽しみです。」と話し、和やかに対談がスタートしました。

—野球選手、特に若手の方々は、お金について不安を抱いている方も、少なくはないのでしょうか？

藤川さん：ものすごく多いですね。実績を伸ばしていい選手になれば、日本の球界でも長期契約できる制度が入ってきて、選手へのサポートは少しずつ増えています。ですがそこに行くまでですよ。選手たちはすごく不安を抱えていますし、入団するときの契約金も非常に下がってきている。そういう意味では今の方がある意味ドライで、セカンドキャリアの受け皿は少ない。球団も必死にサポートしようとしていますが、どうしてもなかなか現状は難しいですね。

司会：なるほど。コロナ禍という状況が相まって、お金に対する不安が増してきているということですよ。臼井社長、お聞きになっていかがでしょうか？

臼井：球団経営って本当に大変だと思います。無観客が長く続いて、現状でも観客は球場の大きさに関わらず5,000人ですし、それを考えると、選手も大きな不安を抱えながらプレーされていることと思います。ただ、コロナ禍で世界が大きく変わりましたから、やはりお金に対する意識というのもスポーツ選手に限らず大きく変化してきていると感じています。「つみたてNISA」って聞かれたことがあると思いますが、2018年1月からはじまった制度で、年40万円までの投資なら分配金や売却益が20年間、非課税になるものです。この口座開設が、2020年の1年間で1.6倍に増えたんですね。貯蓄から投資へ、貯蓄から資産形成へと政府が叫んで20年経ちますが、まだ現状はあまり進んでいない中、この1年ではだんだん将来に向けて考えが変わってきたことを感じています。特にこの伸びをけん引して

いるのは、20代・30代の若い世代。若いということは、それだけ残された時間がある、という事ですから、ぜひ選手のみなさんも含め、金融リテラシーを高めていただきたいと思います！

—お金の話と言えば、まずは「貯蓄・貯金」というところだと思いますが、実際の後輩たちを見ていて、ちゃんと貯金はされている方が多いのでしょうか？

藤川さん：今の選手は、ある一定のラインからやっと貯金から資産運用に切り替えようとしているという印象ですね。具体的には5,000万円を超えたあたりから相談が増えてきました。銀行では資産運用を勧められますが、自分たちの時はリーマンショックを受けて、運用をしていた選手の中には苦しくなった人もいましたので、僕たちはそこからずっとエスチョンがついたまま10年ほどすぎてしまいましたね。

社長の白井がレクチャー 投資を始めるにあたってのポイントや、少額で始められる資産運用 藤川球児さん「まずは稼いだら資産運用をどう考えるか」



—後輩たちの資産運用が増えにくいのは、なぜだと思いますか？

藤川さん：アドバイザーが球団の中になくて、アスリートの近くに存在してない。そして短期で利益を得ようとするところが野球選手にはあるので、長期で人生設計を考えることが難しいのではないのでしょうか。しかし実際にやってみるとそこまで難しくありませんし、自分はアメリカでも実際にやっていますから、イメージに引っ張られすぎているのかなと思いますね。

白井：おっしゃる通りです。日本は金融教育ができていなくて、正面からお金と向き合っていない。欧米では小さい時から投資に対する教育が小学校からなされているので、生活の一部として投資がある。アメリカで生活していたと思いますが、まわりのアメリカ人の人は、投資をやっていたんじゃないですか？

藤川さん：まさにアメリカの選手はいい車とか全然興味がなくて。まずは稼いだら資産運用をどう考えるか。これはアメリカの選手と限らず、ドミニカや南米の選手も同じです。短期で稼いだ資産をどうやって長く増やしていくかを考えています。自分自身も、実際の資産はアメリカで持っていて、7:3でアメリカが7で日本が3という状態です。アメリカでは3が銀行口座、7は資産運用で、これくらいがベターですね。

臼井：おっしゃる通りで、実際に、日本では貯蓄メインで投資をしないので、日本とアメリカで20年間の家計資産の推移の資料をみていくと、日本は20年で1.2倍にしかなっていない。全然増えないのに対して、アメリカは2倍、イギリスでは2.3倍になっているんです。

先ほど、年俵5,000万円を超えたくらいから資産運用の相談が来る、と仰ってましたが、年俵数百万の時代から、少額でもきちんとポートフォリオを組んで運用してく、というクセを付けていくんです。そうすれば、年俵が上がるにつれ、運用資産も増えていきますから。全然違うと思いますよ。

藤川さん：全然差が出ますよね！20代～30代からはじめるというのが重要だと思います。自分は子どもが19歳なので、運用について知ることはこれから非常に大切になると思いました。やっぱり少子化になっている現状で不安を抱えたら良くないし。どんどん積極的にやっていかないといいなと思いましたね。

—臼井社長、まず投資をはじめるとあって、踏まえておくべきことはあるのでしょうか？

臼井：とりあえずやってみるというのは重要だと思います。ただし、ピッチングの配球でもそうですが、何も考えずに「えいっ」と投げればいいわけではありません。相手のデータを集めて研究するのと同じで、貯蓄も一発勝負で短期にドンと入れるのではなくて、長期でコツコツ積み重ねること。そして分散することが基本だと思います。準備と基本が大切なのは野球と同じですね。

—「短期で結果を出したい」と考えてしまうものですが、そんなにうまくはいかないという事ですね。

藤川さんは、実際どのように投資をなさってたんですか？

藤川さん：私は、妻と相談しながらやっていました。アメリカにいとまわりの選手から教えていただいたりするので、現役を辞めた時に不安のないようにしました。これはグラウンド上では誰も聞きたい話ではないと思いますが、もう一歩みると、リアルに生活するファミリーがいる。子どもを育てていく中でのメジャーへの挑戦だったので、お金に不安がない状態で、野球に打ち込める環境を整えることは大切だと思いました。

—少額から始められて、将来少しでも安心できる、みたいな資産運用はありますか？

臼井：少額で始められて、かつ、将来を見越して、ということでしたら、やはり投資信託がおすすめです。積立にすれば100円からでも始められます。投資信託は、投資対象が「国債・社債」「株式」「不動産投資信託（REIT）」「コモディティ(金・原油・穀物など、日常生活に必要な資源や商品)」に大きく分けられます。直接、株式や不動産に投資する、ということも可能ですが、株式の場合は、売り時や買い時を逃がさないように、ある程度値動きを気にしておかねばなりませんし、不動産であればまとまった資金が必要だったり、ローンを組んだり、「お金」と「手間」と「運用力」が必要になります。ですが、投資信託の場合は自分で運用する必要はありません。ただし、値動きはありますので、一気に大口で購入するとせずに、積み立てなどで少しずつはじめるのがいいかと思いますね。

—この投資信託でも、やはり損をすることもあるんでしょうか。

臼井：プロ野球選手の選手寿命って短いと思うんですね。

藤川さん：だいたい平均で9年だと思います。

臼井：9年あれば、ある意味長期になるので、さっき言ったようにコツコツやっていけば増えていくと思います。逆に5年とかだと、損がでたタイミングでやめてしまうことになるケースも。現に、金融庁の示しているデータなのですが、保有期間が5年以下になりますと元本を下回ることもあります。20年保有すれば2%~8%の運用益が得られるという検証結果があります。腰を据えて少しずつ長期でやるのが重要だと思いますね。

藤川さん：僕もそう思いますね。僕自身、まだ日本での資産運用はこれから考えていかなきゃな、というところなので、今答え合わせをしながら聞いています（笑）「コツコツと長期で」というのを後輩に伝えていきたいと思います。

藤川球児さん、プロの意見に感嘆！社長・臼井に徹底質問。今やっておくべきことは



—藤川さん、お金について、是非臼井社長にこれは聞いておきたい、ということはありませんか？

藤川さん：私は、先程お話ししたとおりで、アメリカでは資産運用の経験があるんですが、日本でもぼちぼち、やっていきたいなと考えています。ただ、日本の最新の金融事情というのにそこまで詳しいわけでもないの、今、日本でやるならこれだ、というのがあったら、教えていただけないでしょうか？

臼井：これが儲かる、というものは正直誰にもわかりません。ですが投資の基本は「長期」「分散」です。さっき7:3とおっしゃっていたのをもう一つ分けて、今すぐ使うお金と、中期的なお金（子供の入学金やマンションの頭金など）、老後のお金。これを、人にもよりますが2:5:3など割り振って、それに応じた投資をするといいと思います。株などは勉強しないと難しいので、余裕のあるお金で時折、損をしつつも学んでいくというのがいいかもしれませんね。

ピンポイントで「コレ」と買ってしまつと、その時点で分散できていないことになるので、資産全体を踏まえた「ポートフォリオ」を組むことが大切です。その中で、国内資産だけでなく海外資産も保有して「分散」する。そうすれば、日本の景気が悪くなった時は、海外資産でカバーするという「リスク分散」ができるようになります。

藤川さんの場合は、海外資産の運用経験も十二分にお持ちだと思いますので、同じ要領でリスク判断をされながら日本円で資産を築かれていけば、全く問題ないと思います。

藤川さん：月々定額から始められるものがないとおっしゃられていましたが、具体的にはNISAとかですか？

臼井：つみたてNISAもいいですが、限度額がありますので、iDeCoなんかはどうでしょうか。個人事業主は上限月68,000円なので、年間816,000円。これを積み立てとしてやっていただくのですが、積み立ての中をどう運用するかは自分で決められるんです。一番何も考えずに選べるのは、定期預金ですが、これは入れていても大きく増えません。あとは投資信託でリスクの低いものから、利回りがいいけれど少々リスクのあるものまであります。68,000円の中でポートフォリオを組んで、気軽に運用していくといいと思います。60歳まで貯められて、税制のメリットもたくさんあるんですよ。

藤川さん：税制のメリットはアスリート以外にも共通しますよね。自分は、子どもはアスリートではないので僕が学んだら子どもに教えたいと思います。僕たちができていなかった分、子どもたちの世代にはどうやってやるのかを伝えたいんです。そのためには、まずやってみないと思っています。

—今年もコロナ禍だったりとかはありつつ、オリンピックがよいよ開催されるかというところで。

2021年だからこそ、やっておいたほうがいい、というようなことは、何かあるでしょうか？

臼井：残念ながらオリンピックイヤーとなってしまうと、時すでに遅し…なんですよ。このタイミングですと、上がるものは上がり切って、下がるものは下がりきっているんです。そのため、オリンピック候補地が確定したタイミングで物色を始めなければなりません。これ、不動産も共通するものがありまして「大型商業施設や新駅ができてから買う」のではなく、まだ多くの人認識してないところから動き始める。これがポイントです。

藤川さん：なるほど……。儲けるってやっぱり難しいですね。あとは、最近ビットコインが過去最高値というニュースを最近見て、ちょっと自分のいやらしい部分が出てしまって（笑）ああいうのはどう思われますか？

臼井：いやらしい一面が出ると、「いいですよ」と言いたくなりますね（笑）大きく儲かった方もいるので、一概に悪いものではないです。ですが、あれだけ大きく上がるということは逆もあるんです。その点についてははっきりリスクを認識しておく必要があると思います。さらに仮想通貨は経済と連動して値動きしているわけではないので、予測不可能な要素が多くあると思います。トリッキーなんですよ。初めて対戦する打者のようなものです（笑）ダメだとは言いませんが、一部遊び心でやってみるというような、ロマンとしてやる程度ですかね。自分の全財産を一点張りは全く勧めません。

リスクが大きいものは、「ポートフォリオ」がやはり重要で、自分でルールを決めるといいと思います。例えば、総資産の10分の1、20分の1で“リスク性商品”を持つと決めます。どんな商品を選択するかは抛りますが、なくなっても良い、という金額に設定するんです。

藤川さん：ビットコインは利益が出ても税金がすごくかかりますよね。手を出してもやめ時と入れどきがわからない。だから手を出せずにいました。

臼井：やっぱり興味は湧いてしまうと思います。そういう見方では、競馬やボートレースも本命と大穴とで賭けるじゃないですか。そういう感覚で、2:5:3の中の3の部分でちょっとくらいやってみるくらいの気持ちがいいと思います。それこそ儲かったら儲けもので、なくなったらしょうがないなって思える範囲で。

藤川さん：人生勉強で動きを知ることは大切ですね。遊び程度と聞いて少しほっとしました。大変参考になりました。ありがとうございます！

藤川球児さん、現役時代の10連投を振り返る。今年の野球界は「そろそろ牙城が崩されるだろう」



—折角の藤川さんとの対談ですので、野球についてのお話も少し、お聞きしましょう。藤川さんの現役時代の活躍の中で、特に印象に残っていることはありますか？

臼井：そんなの、ありすぎて語れないですよ！けれど、なんとか絞って1つ言うと、2007年にタイガースが10連勝して一時ジャイアンツを抜いて首位に立った時に、10連投されたじゃないですか。9連勝目にドームに観に行っていて、どれだけ頼もしくてどれだけ感動したか。

藤川さん：僕のキャリアの中でも一番印象に残っているのがこのことです。それだけ10連投ってキツくて。最初は全然つらくないんです。3連投、4連投は当たり前ですから。けど6連投を超えてくると、身体がつかっていくかなって思ってくる。最後の10連投目はマウンドに上がっただけで大汗かくくらい。僕はチャンスを掴めないところから、こうして周りのおかげで人生設計ができてきたので、呼ばれたら出たいと思いましたね。呼ばれたら出て行って、どれだけできるのかをみんなに見せてやるんだって思っていました。選手としてのバブル時期ですよ。若かったからできたことです。今後輩たちに同じように仕向けるかと言ったら、やりたいと言ってもやらせないと思います。ただコンディションを見る自信はあります。

臼井：そういう話を聞くとすごく感動しますね。こちらにもその思いは伝わっていました。ファンとして見ていて、盛り上げていこうという気持ちは感じていましたよ。

藤川さん：全てがパッケージでしたね。みんなでタイガース。みんなで魅せる。それができていた時期でした。本当に素晴らしいチームでした。

—大きく変化を迫られた2020年を経ての、2021年のプロ野球界。藤川さんが感じる、今年の注目ポイントはこういったところでしょうか？

藤川さん：プロ野球界は、セ・リーグが急に若返りました。ジャイアンツという素晴らしい選手を揃えたチームがありますが、さあここから他にどんなチームを作り上げていくのか。そしてどう立ち向かっていくのか。そろそろ牙城が崩されると思いますよ。キャンプを見ただけでは「ジャイアンツ、いいな」と思いましたが、若いチームが勢いでいったら、ジャイアンツが厳しくなって社長のファンのチームがいく可能性がありますよ。

臼井：いつもこの時期（開幕前）は楽しいんですよ。ただ、シーズンオフには、（結果を振り返って）打ちひしがれる、みたいな。

藤川さん：今後3年から5年は連覇しているかもしれませんよ。ただ選手のモチベーションが低下しないこと。メンタルコントロールをしっかりして、一步一步着実に。運用と一緒にですよ。やっぱり大博打かけたようなプレーヤーばかりではダメなので、堅実にいくところ。そう言う意味ではドラゴンズはチャンスがありますし、広島カープの若さもありますから。パ・リーグの方はソフトバンクの選手がちょっと「ん〜」というところがあるので、どうなっていくのか見えませんが、オリックスもそろそろ頑張っって欲しいと思います。

—臼井社長は、こういったところを楽しみにされていますか？

臼井：今言ったように、みなさん若々しいですよ。タイガースにおいても、若い選手たちが高いレベルで競い合っているんですよ。見ていると楽しくなってきました。あと、今は外国人選手が来ていないじゃないですか。球界全体で見たら、外国人選手が揃って、フル戦力になっての熱い戦いに期待したいですよ。

藤川さん：格差が出ますからね。だからこそ日本人選手にとっては、コロナ禍でみんなが大変なのにある意味でチャンスとも取れる。だから選手はみんな黙っているんですよ。外国人選手が来ないことについて言及しない。やっぱりプロの凄さを見せてもらいたいし、やっとな野球界が若々しくなると、我がタイガースも含めて思いますね。

2021年阪神タイガースの成績は？ 藤川球児さんが語る注目選手！



—今まさに、オープン戦の最中で、今日はその試合がない狭間の日ということで、ご調整いただいて藤川さんには本日、ご登壇いただいているわけですが。阪神タイガースのスペシャルアシスタントとして、そして、解説者としてオープン戦をご覧になっている中でのお話をお伺いしましょう。

まずは、藤川さんが今年、最も注目している選手は？

藤川さん：あんまり興味がないんです、というか興味を持ってはいけません（笑）立場上、どうしてもチームの誰々がって話になると難しい。ただ、たくさんのレギュラー候補がいるチームの現状をどこかで整理しないといけないと思っています。9つのポジションがあるように、全員が試合に出られるレギュラーとなると、指揮を取る方は難しくなる。その辺の組み合わせは今から監督がやっていくと思います。僕の注目は首脳陣ですね。タイガースの監督です。監督の決断力と我慢する力を、集大成として育て上げた自分を見せて欲しいと思います。

臼井：私はいちファンとして、高山選手ですね。レギュラーに返り咲いてもらいたい。私は、高山選手は首位打者を目指せるポテンシャルがあると思うんですよね。そこがもったいなくもあり、歯痒さもあり。「使ってやってよ」って気持ちもあたり。

藤川さん：球団でも、高山選手は素晴らしい能力があると言われていました。タイガースは佐藤という選手をドラフト1位に指名しましたが、一番の選手だったので思い悩んでドラフトを指名していますからね。悩みが強過ぎて、球団も苦々しい思いをしてますよ。けどこれがタイガースファンのいいところで、春はいつもそうだって言ってくれる（笑）中盤になると選手がいなくなる。そこで星野監督、岡田監督は優勝させていますが、我慢強く選手を起用した時だけが勝っているんです。それから忍耐力、決断力、そしてメディアが動いても止まれる力。出してもらえない選手は嫌な顔をするとありますが、そこはヘッドコーチと役割分担してもらうところですね。そこにスペシャルアシスタントとしての意味があると思います。

—ズバリ、今年の阪神タイガースの、順位予想をお願いできますでしょうか。

ちなみに、2020年の2月に、同じく元阪神の赤星さんに本企画にご登壇いただいた際にも順位予想をお願いしたのですが、「優勝」と予想されていました。ポイントとしては大山選手と、前後を打つボーア選手・サンズ選手の活躍と予想されておりました。大山選手は去年、見事な活躍で、タイガースも優勝とはならなかったものの、2位という好成績でした。

—藤川さんにも、順位予想と、その順位となるためのポイント、お聞かせいただけますでしょうか。

藤川さん：順位予想は僕が評論家としてやらないと決めていることです。僕は新聞の評論家でありながら、順位予想しなければという条件で契約しているんですよ（笑）なので順位予想はしないですが、チャンスは昨年よりはあります。他球団は外国人の入団が遅れていますが、うちには外国人選手が今でもいるので、アドバンテージになっていると思います。藤浪選手が頑張れば、など色々な条件はついてきますが、極端に言えば、3位って言えば楽ですよ。チームが強く、選手たちが幸せな顔をして、ファンの方が楽しそうなら僕は何位でもいいですけど、そうすると優勝しなくなるけど（笑）

臼井：去年は2位とは言っても、対巨人戦でやられてしまったので残念でした。巨人にだけは負けるなっていうのが阪神ファンだと思うんです。やられっぱなしは、ちょっとなんとかしてよと思いますね。熱い戦いを見せてくれるなら、最終順位は時の運でもあると思いますし。

藤川さん：対巨人戦については、一番は監督が思っていますよ。僕は去年のようにはならないと思います。ジャイアンツの今の状態を見ると、少し厳しいのかなとは思いますが、ジャイアンツの選手って今から上がってくる。東京ドームのオープン戦が増えてくると、東京ドーム打法みたいなものがあるんです。甲子園球場とは打ち方が違うんですよ。ホームゲームをしっかりとっていている。土のグラウンドでのミスが減らすことが課題になりそうですね。この一騎討ちになるかな。去年は優勝が決まっている中で、タイガースはまだ順位を追いかけていたので、初めて見る光景でしたね。優勝マジックは消えていたけど、2位3位を争ってる。僕はそこに違和感があったので、今年はその部分を注目して見ていきたい。僕は投資と一緒に、堅実なことしか言えないんです（笑）

—プロ野球選手のセカンドキャリアにとってとても大事な「お金」について、踏み込んだお話をさせていただきましたが、いかがでしたでしょうか？

藤川さん：自分は日本でこの勉強をしたいと思っていて、けれどきっかけがありませんでした。家に資料が投函されていて、それを眺めるだけはしていましたが、それだけでは分からなくて。僕で分からないんだから、今の現役選手は余計分からないと思ったので、そういうきっかけを作りたいです。プロ野球選手に限らず、個人事業主のアスリートの方にも知ってもらいたいですね。「小さなところから堅実にコツコツと」これを自分自身の人生でも、これからのセカンドキャリアの糧にしていきたいと思っています。ものすごく勉強になりました。

—最後に藤川さんご自身の今後の活動についてお聞かせください。

藤川さん：やっぱりプロ野球のこともありますが、オリンピックになったら他の競技も含めて、これからスポットライトの当たる選手たちの熱い気持ちを、取材を通して伝えていきたいです。今年はプロ野球に関わらず高校野球、少年少女野球に力を入れていきたいとも思っています。

■登壇者プロフィール



藤川 球児 (ふじかわ きゅうじ)

生年月日：1980年7月21日

出身地：高知県高知市

球歴：阪神タイガース。1998年ドラフト1位で入団。2012年、メジャーリーグ、シカゴ・カブスに、2014年テキサス・レンジャーズに在籍。その後、2016年に阪神へ復帰、2020年に現役引退。現在は、解説者や YouTuber として活躍しながら、阪神タイガースの「Special Assistant」としても球団に携わる。



白井 朋貴(うすい ともし)

生年月日：1968年8月17日

出身地：大阪府大阪市

【略歴】

1991年 第一勧業銀行入行

2002年 フューチャーシステムコンサルティング株式会社（現フューチャーアーキテクト株式会社）入社

2009年 住信 SBI ネット銀行執行役員就任

2014年 SBI 証券執行役員就任

2015年 KDDI 金融ビジネス統括部長就任

2019年 auじぶん銀行 代表取締役社長、au フィナンシャルホールディングス代表取締役副社長就任

■auじぶん銀行について

au フィナンシャルグループの au じぶん銀行は、『じぶんのいる場所が、行く場所が、ぜんぶ銀行になる。そういうスマホの自由さ、便利さを銀行にも。』という思いを込めて「銀行を連れて、生きていこう。」というブランドメッセージを掲げるとともに、生活の中心となったスマートフォンを通じてお客さまの日常生活における決済・金融サービスをより身近にする「スマートマネー構想」を推進しています。今後もスマートフォンを中心とした金融サービスを提供し、“お客さまに一番身近に感じてもらえる銀行”として、お客さまやパートナー企業さまとともに新しい体験価値を創造していきます。

au じぶん銀行

以上